



VFS-1 Manager とは？

VFS-1シリーズを、パーソナルコンピュータに接続することで、周波数を初めとする設定をより簡単に行うための支援ツールです。設定アダプターで行う場合に比べステップごとの周波数やその他の設定が1画面で行えるためにイメージが掴みやすく大きく効率がアップします。(この説明書はVer2.1のソフトウェア用です。また、VFS-2000シリーズには対応しませんので、ご注意ください。)

ソフトウェア動作環境

Microsoft Windows98,Me,2000,Xpが動作するパーソナルコンピュータ
 接続コードを使用するために最低1個のRS-232Cポート(USBを介してのアダプターによる動作は保証いたしません。)
 インストール時にフロッピーディスクドライブが必要です。
 当製品を使用した結果の障害に関しては、一切の責任を負いかねます。

使用許諾・商標について

このソフトウェアは、VFS-1シリーズおよびOEM製品とICS-PCインターフェースをお使いの場合に限り、フリーソフトウェアとしてお使いいただけます。このソフトウェアをご使用になったことによる、直接または、間接的な損害、結果については、著作者である近藤科学(株)は責任を負いません。ご使用にあたっては、使用可能な機器その他の条件を確認して行ってください。

VFSシリーズの周波数設定機能については、近藤科学(株)が特許取得済です。
 この文書及びプログラム中の商標および名称はそれぞれの登録商標および意匠です。
 この文書およびプログラムなど著作物に関しては、近藤科学(株)が著作権を有します。

付属フロッピーディスクについて

付属のフロッピーディスクには、VFS-1 Managerのプログラム本体とsampleフォルダの中にサンプルデータが入っています。このサンプルデータは例ですので、実際にはお使いの環境、その他の条件により変更を加えてください。
 また、ソフトウェアのアップデートなどの仕様変更がある場合、当社ホームページでアナウンス、サポートいたします。

インストール

- 1 パソコンのハードディスク上に適当なフォルダを作成します。(例:C:\VFS-1)
- 2 作成したフォルダにプログラム(付属フロッピーの内容)をコピーします。
プログラム本体 VFS_1_MGR21.EXE
- 3 必要があれば、デスクトップにショートカットを作成します。
- 4 プログラムをスタートさせる前に、パソコンで使用可能なRS-232Cポート番号を調べておきます。
(パソコンの取扱説明書などをご参照ください。)
よくわからない場合にはお使いのパソコンメーカーなどでご確認ください。



通信準備

- 1 パソコンに接続コネクタを接続します。コードが短い場合には、延長ケーブルなどを使用してください。
- 2 接続ケーブルにVFS-1の受信機へ接続するコネクタを接続します。VFS-1は電源を接続し通信モードにします。
- 3 VFS-1に電源を接続して、セットボタンを押しながら電源スイッチをONにします。
LEDランプが点灯してもさらにセットボタンを押し続けて、LEDが消灯したらボタンを離します。これが通信モードです。

画面の説明と操作

VFS-1 Managerを立ち上げると、次ページの画面が表示されます。

COMポート設定
 コンピューターとの通信ポートの設定です。まずはじめに、インターフェースケーブルを取り付けているPCのポート番号をここで指定します。現在の接続ポート番号が不明の場合には、Windowsコントロールパネルの「システム」にある「ハードウェア」タブをクリック、「デバイスマネージャー」を開き、「ポート」をクリックすることで現在の接続状況を確認できます。
 ICS-PCインターフェースが接続されたポートの番号を指定してください。

VFSからのデータ取得
 このアイコンをクリックすると(VFS-1が正常にアクセスモードに入っていれば)現在のVFS-1のデータがPC画面上に表示されます。セッティングデータの加工をする前に一度現在のVFS-1データを読み込んでから作業することをお勧めします。

PCからVFS-1へのデータ転送
 このアイコンをクリックすると現在のPC画面上のデータがVFS-1に転送され、上書きされます。

ニュートラルブレーキ設定
 スロットルをニュートラルに戻したときのブレーキを設定することができます。右のスライドバーを動かすことでOFFから100まで100段階の設定ができます。この際、設定値100でのブレーキ量はスロットル操作の約50%に相当します。

ブレーキ周波数設定
 ブレーキの利きの強さを周波数設定で変更できます。右のボタンを押して、任意の周波数を選択してください。一般的には周波数が低い方が強くかかるようになります。送信機側のブレーキストローク調整とあわせて調整すると良いでしょう。

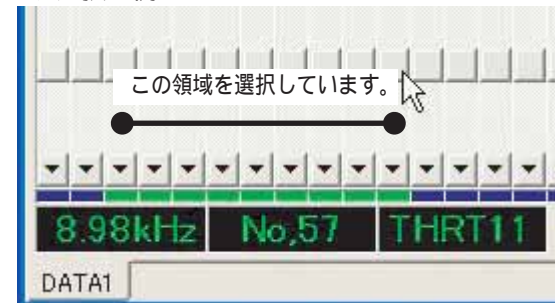
パワーセーブボルテージ設定
 急激なスロットル操作や一瞬の負荷に対して多くの電流が流れた場合、バッテリーの電圧降下が起こり、受信機やサーボの異常動作が起こる可能性があります。VFS-1にはここで設定した電圧をバッテリーが下回ったときにモーターへのパワーをコントロールし、メカに供給する電圧を確保する機能が内蔵されています。VFS-1 Proでは2.5V、VFS-1 Jでは3.5Vが初期設定値となっております。

スロットルレスポンス設定
 スロットルのタッチフィーリングを変化させることができます。右のボタンをクリックすることでOFFから9まで、10段階での設定ができ、大きな数値になるほどマイルドなフィーリングを得ることができます。効果は使用する条件によって異なりますので、実戦投入前にテストしておくことをお勧めします。送信機のスロットルパンチ機能と組み合わせるでも良いでしょう。

カレントリミッター設定
 VFS-1がモーターに供給する電流の最大値をコントロールすることにより、過大な電流が流れることを防ぎ、モーターやバッテリーを保護します。右のボタンをクリックすることで40~260Aの12段階のリミッター制限、または制限解除のOFFを選択してください。

コメント
 現在表示している画面データに対するコメントを記入できます。

ブロック選択の例



ALLスライダー
 前進時の周波数設定の全体をブロックとしてまとめて加減することができます。

データインジケータ
 データスライダーの現在のステータスを表示します。右から「選択しているTHRT番号」「周波数番号」「周波数」の表示です。

データタブ
 このタブをクリックすることでウインドウに表示している設定と異なるデータをページとして呼び出すことができます。右クリックのメニューでページの追加、名称変更することも可能です。また、前述の「周波数」の設定はこのデータタブに付随して変化します。

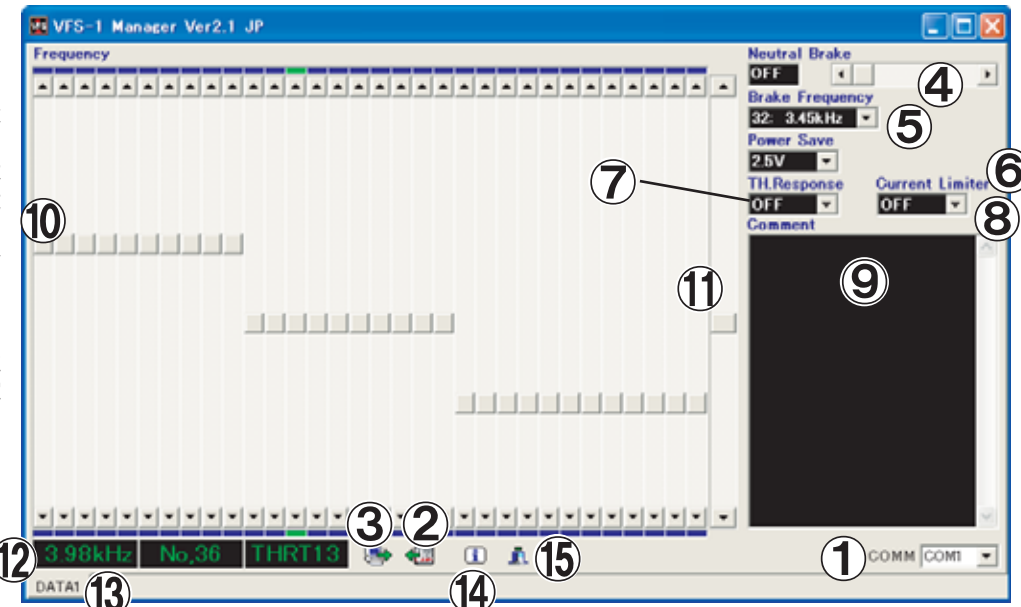
インフォメーション バージョン情報などを表示します。
終了ボタン プログラムを終了します。

サブメニュー

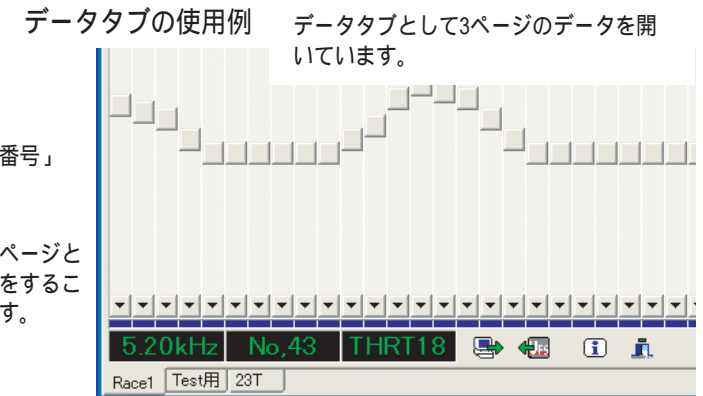
データ表示部分をマウスの右クリックすることでメニューが表示されます。

	<ul style="list-style-type: none"> ● データタブでアクティブになっているページの名前をつけることができます ● データタブの新規追加ができます (新規に追加されたページは全ての設定が初期値になっています。) ● 周波数変化の途中で滑らかに補完されます (スライダーの1点をクリックした後、Shiftキーを押しながら任意の異なるスライダーをクリック、このときの2点に高低差があった場合、右クリックでこのコマンドが実行可能になります。) ● 実行することで、現在表示中の周波数データが初期化されます ● 実行することで、現在表示中の周波数以外の全てのデータが初期化されます ● 保存してあるファイルのデータを現在のデータに追加して開きます ● 現在表示しているページのみ保存します ● 全て保存します ● 編集中のファイルを開きます ● 編集中のファイルが閉じられて、表示は初期設定の状態となります ● 現在表示しているページ(タブ)のみを削除します
--	--

当製品は品質向上のため予告無く変更する場合がございます。



データスライダー
 前進時の周波数設定です。VFS-1では前進側のスロットル操作位置の全開ポイント(ハイポイント)直前までを32個の領域(THRT)に分解して各領域の周波数を調整することができます。それぞれの領域での周波数設定は64ステップ(約1~12kHz)です。
 1つのスライダーをクリックすることでデータインジケータに現在のステータスが表示されます。つづけてShiftキーを押しながら任意の異なるスライダーをクリックすることで最所に選択したスライダーから連続ブロック化され、その選択された範囲全体をドラッグすることができるようになります。なお、Shiftキーを離すとこのブロック化は解除されます。



お問い合わせ

近藤科学株式会社 サービス部 〒116-0014 東京都荒川区東日暮里4-17-7
 TEL 03-3807-7751 土日および祝祭日除く(9:00~12:00 13:00~17:00)

<http://www.kopropo.co.jp>